



第556号

学校だより

6月号

横浜市立東本郷小学校

令和5年5月31日

ひとにやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子

雨の日は、やさしさに気づける日

学校長 堂腰 康博

朝から大粒の雨が降り続く、肌寒い5月の朝のことです。その日も正門前には、開門時刻の8時に合わせて子どもたちが集まっていたのですが、服や靴、ランドセルが濡れていて大変そうでした。

「みんながんばって登校したね。すぐに開けるから待っててね。」と声を掛け、持っている傘の柄を肩と顎で挟みながら、引き戸のてっぺんにかかっている南京錠に両腕を伸ばしました。すると、門扉の向こう側にいる子どもの傘がすっとわたしの方に伸びてきました。はじめは、何のことだか分かりませんが、解錠した南京錠を元の位置に戻そうと、もう一度引き戸のてっぺんに腕を伸ばすと、また同じように傘が伸びてきました。そうです。かしげられた傘は、鍵の開け閉めをするわたしに雨のしずくがかからないようにしてくれた、思いやりの行動だったです。

時間にしたら、ほんの数秒の、あっという間の出来事ですが、彼のやさしさは心に沁みました。きっと友達やお家の人にやさしくしてもらった経験があるから、そんな行動ができるのでしょう。わたしは、急いで門を開きながら「さっきは傘の中に入れてくれてありがとう。うれしかったよ。そういう何気ない行動が自然にできるって、とってもすてきだよ。」お礼の気持ちを伝えました。

雨の日のエピソードは、ほかにもあります。それは、6校時目を終えたところで天気が急変し、ちょうど下校の時間帯に合わせて大雨に見舞われた時のことです。傘を持っていない子どもたちで昇降口は大混雑していましたが、ついに濡れるのを覚悟で走り出したり、一本の傘に数人で入って固まりながら帰ったりする子もおり、みんなの無事を祈るような気持ちで下校を見ていました。

すると、人の流れに逆らって、男の子が昇降口に向かって走ってくるのが見えました。ラグビー選手のように傘3本を胸に抱き、上級生の間を縫うように走っています。びしょ濡れになっているのは、「一刻も早くお姉ちゃんたちに届けなきゃ。」の思いが強すぎて、傘を差しているひまがなかったのでしょうか。顔つきも、普段のあどけない表情とは違ってとても精悍に見えました。なんてやさしくて、家族思いなのでしょう。届けてもらった傘を手にしたお姉さんたちの喜ぶ様子を想像すると、こっちまでうれしくなりました。そして、人を思いやる気持ちを育んでこられたご家族に敬意を表したい、素直にそう思いました。

次の日、彼からは、とっさに自分で考えて行動したことや、ありがとうと言ってもらえたから「届けてよかった」という話を教えてもらいました。わたしが、「まるでヒーローみたいにかっこいい顔をしていたよ。」と伝えると、恥ずかしそうに「うん。」と深く頷いてくれました。



人にやさしい子どもたちが育っている東本郷小学校では、雨の日には、いつもと違う世界をわたしたちに見せてくれます。「これから梅雨が始まるけど、やさしい気持ちをもった子どもたちが、どこかで雨にまつわる面白いドラマをつくってくれるだろうな…」と期待しながら、今も窓の外に降る雨を見つめています。(前半のエピソードは4年3組の児童、後半のエピソードは2年1組の児童です。)